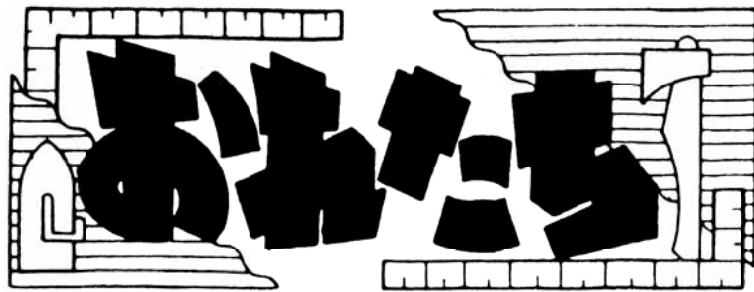


無料法律相談日の案内

3月15日(金)14時~16時

希望者は前日までに予約を

1月当初組合員数=1838人 (-11人)



発行所
東京土建一般労働組合荒川支部
東京都荒川区荒川6-3-1
TEL(3892)9131 FAX(3892)9381
発行者・津田宗久/編集長・小熊賢一
http://www.doken-arakawa.org/

2024年新春旗びらき

後継者の育成・組織強化を目指して



組合への協力を訴える津田執行委員長

組合員には昨年1年間の組合活動、運動への協力に感謝を述べました。
「昨年は秋の拡大の達成に感謝を申し上げます。今年1年も宜しくお願ひします。昨年は物価高の1年でした。生活必需品、現場での材料費、飲

料など何から何まで上がって大変でした。私たち建設職人の減少問題、インボイス登録による増税問題、マイナンバーカー



掛け声に合わせてヨイショ

来賓の東京土建本部後藤英雄常任中央執行委員からは「新年おめでとうございます。元日の能登半島大地震で大変な被害が出ました、お見舞いを申し上げます。昨年は組合諸活動、運動に協力ありがとうございました。秋の拡大を達成した事は組合員に勇気と力を届けたことと思います。賃金アップ、処遇改善の100万人国会請願署名に全建総連や皆様の協力をお願いします」と挨拶がありました。

続いて壇上に樽酒が用意され津田宗久執行委員長、吉田和馬書記次長、相樂由美子ザ・レディー

2024年1月21日、アートホテル日暮里ラングウッドで荒川支部新春のつどいを開催しました。
当日は70歳を迎えられた組合員や来賓の皆さまをお招きし、108人の参加となりました。
昨年はコロナウイルスによる様々な制限が解除され、今年こそは明るい年になることを皆さん望んでいたかと思いが、新年を迎えた矢先から能登半島地震

に始まり、東京国際空港の衝突事故、北九州の大規模火災と凄惨な出来事が立て続いています。
また、物価高騰や人手不足、実質賃金の低下など仕事も暮らしも苦しい状況が続いており、まだまだ若者が安心して入職できる状況ではありません。
この日は、区内の政党派、地域共闘団体の協力を得て、建設産業の運動の飛躍を誓う場となりました。



最後は団結ガンパローで意思統一しました

【針谷義行さん】初めて出席して来賓の方や議員さんなど色々な方との繋が

【渡邊直行さん】荒川分会料理も美味しくお酒を飲みながら皆と話ができて楽しかったです。来年も参加したいです。

【緒方裕作さん】町屋北分会【第二峡田小学校のPTA会長をしてるので普段から議員さんとお会いしています。新春のつどいでも話ができて盛り上がりました。

【美内賢志さん】日暮里建設組合【初めて出席させて頂きました。楽しい新年会でした。これからも交流をしたいと思います。



田村後継者対策部長が見事1等を獲得しました

【八木厚生文化部長】津田委員長及び各ご来賓の挨拶の後、第2部のアトラクションに移りますが、去年まで行っていた演者を呼んだ企画を廃止して時間ができた分、仲間や来賓者との交流をすることができました。
今年初の試みとして、プレゼント抽選会は荒川支部の組合員のみを対象にしました。
また、後継者対策部からの要請で、後継者世代だけのテーブルを2つ設置した結果、19人の後継者世代の仲間が交流して盛り上がりました。
最後に、五箇谷副執行委員長の団結ガンパローで締めくくりました。

入荒川会長、濱田和男荒友会会長、浅野由樹青年部部長による鏡開きが行なわれ、小熊賢一副執行委員長乾杯で宴会に移り来賓紹介が行われ、美味しい料理で各テーブルは盛り上がり話はずみませんでした。
また、今回旗開きに初参加された方に話をお聞きしました。

【渡邊猛さん】西尾久分会【とても楽しい新年会で大勢の人と話せて良

かったです。東京都建築士事業所協会荒川支部長をやっていますが小さな組織なので土建は大勢の参加者がいて驚きまし

コロナ明け初の 荒川分会餅つき大会



味付けは女性陣が担当してくれました

【並木義男記者】荒川分会 新型コロナウイルスが令和5年5月8日から5類に移行となり、少しずつ日常の生活が戻り始め荒川分会恒例の餅つきが12月24日



みんなで協力してつきました

に行われました。参加者は44人で威勢よく25キログラムの餅をつき4年ぶりの笑い顔が戻ってきて楽しい一日となりました。準備は前日に支部事務所でもち米25キログラムをとぎ、加藤正雄さん、中村健三さん、石田政利さんが水も冷たい中で2時間がかりで行いました。当日は分会倉庫前に集合し、佐藤仁一さんの車で餅つきの道具を積み込み、会場の鈴木裕子さん宅前の駐車場まで運びました。待機していた役員はテントを張り、もち米を蒸籠で蒸かし、女性はやかん汁の支度や餅に絡める為のきな粉、あんこ、大根おろし、納豆など準備を事業所分会の八木橋郁子さんにも協力していただき準備しました。11時頃、宇佐美智一分会長の挨拶で餅つきは始まり、参加者が順番に餅をつき、こね手は佐藤仁一さんと近所の斎藤正さんが担ってつき、餅にきな粉、あんこ、大根、納豆などを絡めて振る舞い、皆で美味しく食べました。加藤正雄さんの知り合いの齋藤さんにつき手として頼んだところ親子で参加してくれました。齋藤さんの息子さんの睦月さん13歳は剣道をしているだけあって杵を扱う形は拍手で、盛り上げてくれました。他の子供たちも小さな杵で餅つきを楽しんでいる様子でした。

【竹達浩通信員】南千住分会 新年の一月一日十六時十分に、石川県能登半島にある鳳珠郡穴水町の、東北42キロメートルを震央として発生した地震の規模はマグニチュード7.6、震源の深さは16キロメートル(いずれも概算)と発表されました。



この能登半島地震を顧みると、正月の元旦という日本国民の、時期的時間的空白に発生し、また、半島という地理的特異性が事後の救援活動、支援活動に支障をきたしたことも確かと思われる。自然災害、特に地震は発生場所、規模、時間、被害、収束の予測が困難な災害です。更に二次災害の津波、火災、地滑りなどを伴うために、その対策は極めて困難な災害です。地球規模の物理的法則で、起きる地震のエネルギーを、人間の力で抑えることはできません。「日本の地震歴史の年表

を見ると、まだ文字の記録がないため、堆積物によって地震の発生が推定されています。紀元前6500年から2千数百年前、この間に1707年の宝永巨大地震、(家屋倒壊が約790キロメートルに及ぶ)のように、津波堆積物を形成する巨大地震が、少なくとも11回発生したとみられます。(ウィキペディア) 近代は科学技術が進歩し、昔から比べると被害が少なくなっています。が、日本政府は軍備拡張にのめり込むのではなく、本気で民生に注力する時期が来ていると思います。確かに、民生への基盤



若い仲間が集う新年会 ～南千住分会～

仲良くピース

南千住では1月17日に行われる群会議では、普段は南千住二丁目町会事務所を借りて群会議をしている1群、2群、3群が毎年恒例のこのとして三ノ輪の香港楼で新年会を兼ねて群会議を行っていました。今年の新年会の特徴的なことは、参加人員20名の内、半数が若い世代の組合員が参加し大変にぎわいました。これからの時代は、今回新年会に参加してくれたような若い組合員が、継続して組合活動に参加できる環境が最も国力増進と望まれています。



たくさんの若手が集まりました

私の孫自慢



会う度大きくなる青君

【薄井由美子さん】町屋南分会 名前は青(あお)君です。生まれた時は2580g、小さくてはじめて抱っこするのも怖くてドキドキでした。日に日に大きくなり月一度、我が家に両親と共に遊びに来てくれて、笑顔の可愛い孫です。都バスが大好きでバスを見ると指さして「ブルー」と言っています。バスのプサーを押し入るので、ネットで購入したプサーで遊んでいます。転んでも泣かない孫です。これから言葉が覚えて、いっぱいおしゃべりして元気で我が家に月一度会えるのが楽しみです。

整備には膨大な投資が必要ですが、民生への投資は、学術と技術の発展につながり、生産と防災と生活の安定につながり、人口増加と国力増進となります。かたや、岸田政権はこれから先、五年間に、四十三兆円の防衛費を閣議決定しました。しかしこの金額は省庁機関の裏話として、枝葉が絡んで六十兆円になるであろうといわれています。また、際限なく積み重なっていく大企業の内部留保は、五百一十兆円にも達し、経済低迷の一因になっています。その結果、若年層の人々が結婚もできず国力低下に繋が

弱く、更に目に付くのは政党助成金です。制度開始から27年間に、8539億円(赤旗)が使われ、それを原資に選挙買収事件も起きています。弱い零細労働者の財布の小銭まで巻き上げるインボイス制度、更に困窮者が増えるでしょう。地震、火災、水害、津波、更に戦争や原爆から安全に身を守るシェルターは何処にありますか、教えてください。ロシアとウクライナ、イスラエルとハマスの戦争をみて、自然災害の被害と、戦災のいずれの被害も人類には敵なのである。